

# 「平成 28 年度オリンピック・パラリンピック教育推進校」 事業実施報告書

【学校名】 京都府立 鳥羽 高等学校

【全校児童・生徒数】 1037 名

【テーマ】 I II **III** IV V

- I スポーツへの誘い 自己肯定感の醸成
- II 障害者や高齢者への理解 共生社会の形成
- III スポーツへの関心や競技力向上 スポーツボランティアへの参画
- IV オリンピック・パラリンピックに向けた京都の伝統や文化等の発信
- V 国際理解教育の推進

## 【実践研究タイトル】

講演会

タイトル 『私と水球とオリンピック ～後輩たちへのメッセージ～』

## 【実践学年、部、講座等（学年別・男女別人数）】

普通科スポーツ総合専攻	1 年（男26・女16	合計42）
	2 年（男27・女14	合計41）
	3 年（男25・女16	合計41）
普通科文科・スポーツコース	1 年（男24・女18	合計42）
	2 年（男20・女10	合計30）
	3 年（男21・女19	合計40）

## 【目的・ねらい】

オリンピック・パラリンピックの価値	友情（ ）	卓越（○）	尊重（ ）
	勇気（○）	決断力（ ）	
	平等（ ）	鼓舞（○）	
○オリンピック・パラリンピック教育を行う事で、2020 年東京オリンピック・パラリンピックに様々な形で積極的に参画し、スポーツを通してグローバルな活躍ができる人材の育成を目指す。			

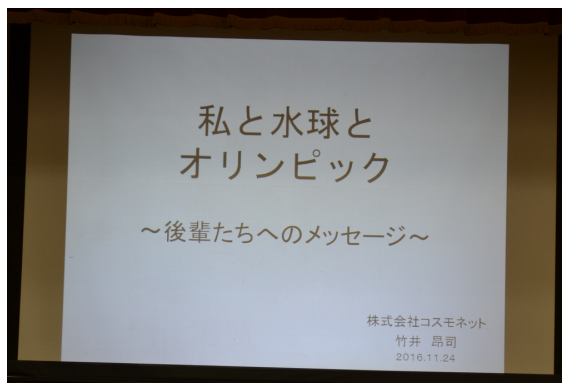
## 【種類】

- ・各教科（ ○ ）
- ・道徳
- ・外国語活動
- ・総合的な学習の時間
- ・特別活動
- ・部活動（ ○ ）
- ・その他（ ）

## 【実践内容等】

（実践内容）

○竹井昂司氏（元全日本水球選手）を講師に招き、『私と水球とオリンピック～後輩たちへのメッセージ～』をテーマに、競技に対しての姿勢、練習のあり方、プレッシャーに打ち勝つにはどうすべきか、オリンピック期間中の生活等について講演していただいた。



（実践上の工夫点、留意点等）

○事前学習として講師のプロフィールなどを周知した。

（成果）

○オリンピックは特別な能力を持った選手になるのではなく、ごく普通の選手が夢を持ち続け、その実現に向けてあきらめず事なく自らを磨き、困難を克服することで誰にでもなれる可能性はある。

○手本になる選手のまねをするだけでなく、そこに自分のオリジナリティーを加えて、練習を積み重ね良いものを作り上げる。

○常に試合を想定した練習をすることで、緊張やプレッシャーを感じることなく試合を楽しむことができる。

○単身ハンガリーに渡りプロリーグで心・技・体全てを磨き上げオリンピック出場を成し遂げられたように、自分の可能性がある限り様々なチャレンジをしたい。

○先見性をもち、今の自分と照らし合わせ、目標設定をする。

等が生徒達の心に残った内容であった。

【オリンピック・パラリンピック教育の実施に伴う課題等】

○継続的に取り組む事で、生徒達の意識改革につながる。

○講演をするに当たって講師費用が安価すぎる。素晴らしい講演をお願いするにはそれなりの代価が必要なので、体育系設置校合同で行うなど工夫が必要。

○どんな競技でも良いが、実際にトップのプレイヤーの試合の観戦や練習の見学ができる機会が欲しい。

○人間力を高める学習に繋がる為に、競技者以外の方々から学ぶ事も重要と考える。